

社会力を育む特別活動

— 道徳的心情とのかかわりを整理して —

1 これまでの取り組み

本学校園では、人間は社会的な存在であり、暮らしの基盤を家庭、学校、地域と広げながら、社会集団のなかで成長する存在であるとしてとらえている。

しかし、本学校園には地区に基づく校区設定がないため、公立学校で見られるような学校生活を契機として広がる、地域との関わりが難しいという実態がある。このことは、暮らしの基盤となる地域において、直接的に「ひと・もの・こと」に出会い、さまざまな経験を積む機会が少なくなることにつながり、また、この状況は、地域のなかで自分がどれだけ必要な存在であり、どれだけ貢献しているかについて考えにくくしている可能性も考えられる。「社会力」を「自分が将来身を置くであろう社会において、人とつながり、よりよい社会を築いていこうとする力」ととらえる本学校園としては、直接的に自分が住む地域でさまざまな体験や経験ができる機会が少なくなっていることは、課題と言ってもいいことだろう。

一方で、発達段階を考えても地域の一員としての役割を見つけていくことも大切だが、それとともに学校で経験を積んでいくことも大切であろう。もちろん、学校と地域とでは、構成人員や質には当然違いがある。しかし、どちらの活動も自発的・自治的であるべきことには変わりはないし、学校で経験した関わり方が地域、社会へと広がることを願っている。また、所属する集団がどのような単位のものであると、相手や仲間を思いやり、集団の一員としての役割を果たしていくことが大切である。

この学びを学校教育の中で中心となって支えているのが、特別活動である。わたしたちはこの特別活動によって、友だちや家族という集団で培われた望ましい人間関係を、学校で繰り返し行われる活動へとつなげ、学級から学年、そしてそれぞれの所属する幼稚園・小学校・中学校で十分に高め合いながら、附属学校園全体へ広げていける子どもたちの自発的・自治的な姿をめざしている。そして、11年間の学びを通して次のような姿となることをめざすこととした。

友だちや家族、社会の方々などだれに対しても適切にかかわり合おうとする望ましい人間関係を形成し、一人ひとりが集団の一員として学級や所属学校園、さらに附属学校園全体、そして社会にまでも広げてよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決するために話し合ったり、能動的なアイデアを出し合ったりしようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度が育っている姿。

また、特別活動で育成する資質や能力について、次に示す『6つの力』を定義し、11年間で取り組むさまざまな活動を通して、これらの力を計画的につけ、のばしていくことを考えてきた。

イメージ力 … 活動内容、手順について見通しをもち企画や計画ができる。
 実践力 … 計画に沿って活動し、成し遂げることができる。
 創造力 … 自分なりの考えをもち、新しいものをつくりあげることができる。
 責任力 … 自分の仕事をやりとげることができる。
 受容力 … 友だちの考えのよさに気づき、認めることができる。
 仲間力 … 友だちと一緒に活動することに喜びを感じることができる。

これらが一体となった力を、特別活動領域における社会力と考えている。以上のような考えに基づいて、平成19年度より特別活動領域部会では、仲間との関わりを大切にした特別活動のあり方を探る取り組みを行ってきた。また、その手立てとして、学級活動や係活動に焦点を絞って検討をしたり、「6つの力」のなかでも「仲間力」と「受容力」に着目し、集団活動のあり方について整理をしたりしてきた。その結果としてまとめたものが、「〔表1〕特別活動で育てたい力や気持ち」である。

2 今年度の取り組み

今年度は、昨年度までに整理してきたことと道徳の指導重点目標とをつなぎ合わせ、お互いに整理したいと考えた。そのために、次の3つの取り組みを行った。

①各学年における中心となる活動の選定

特別活動の内容は多岐にわたっており、一度に全てを整理することは難しい。これまでの取り組みをふりかえると、19年度には学級での話し合い活動について、21年度には係活動について整理をしている。そこで今年度は、これまでの視点をより広げていき、学校園の行事おけるめざす姿を整理することにした。

そこで、まずそれぞれの学校園や学年でどのような活動をしているのかを洗い出した。この結果をまとめたものが「〔表2〕附属学校園で取り組んでいる主な行事」である。その後、各活動においてどんな力が育っているのかや、特別活動で育てたい力や気持ち視点を、各学年で中心となる活動を選定した。その際、これまで整理してきた学級での話し合い活動や係活動も選択肢に入れることで、特別活動全体を視野にした選定ができるようにした。

この取り組みの結果、各学年の中心となる活動を右のように選定した。

各学年の中心となる活動

ブロック	学年	中心となる活動
初等前期	4歳	さよなら会
	5歳	誕生会
	小1	お別れ集会
	小2	遠足
初等後期	小3	学級での係活動
	小4	林間学校
	小5	臨海学校
中等部	小6	体育会
	中1	運動会
	中2	運動会
	中3	運動会

②選定した活動と道徳の指導重点目標の照合

選定した活動について、活動計画案を作成した。この計画案には、活動の流れとともにその時々で予想される子どもの姿を記述した。このことにより、それぞれの場面でどのような力を育成するのかをより明確にできるようにした。また、こうすることで子どもの心の動きをとらえられるようになり、道徳との関連性も明らかにできるようにした。特に、本学校園の道徳領域部会では「思いやりを中心とした道徳教育のあり方」について検討を重ねており、そこで掲げている重点目標と活動の関わりをこのように照らし合わせることで、道徳で培う道徳的実践力と特別活動の実践の場がつながるものとして位置づけられるようにした。

③11年間の育ちの検討

ここまでの整理は、主に教育研究ブロックごとに取り組んできた。そのため、各研究ブロックの中では整理できても11年間という全体を見通してどのような成長が見られ、めざす姿にせまることができる段階をつくり上げていることができているかの検討が不十分になっていた。

そこで、作成した活動計画案を持ち寄り、全ブロックの特別活動領域部員で検討を加えた。他のブロックの活動計画案を知ること、活動計画案の妥当性や課題を明らかにできるようにした。また、検討後には活動計画案を再度各研究ブロックに持ち帰るようにし、活動計画案の修正を図った。

3 今年度見えてきたこと

①役割を果たすことによって育まれる自尊感情と社会力の基礎

道徳領域が「思いやりを中心とした道徳教育のあり方」(p.203)で掲げている重点目標のうち、BおよびCの項目が、どの学年においても多くなっていることがわかった。これは、特別活動を通して、幼い頃から集団の一員であることを体験的に習得できるようにするとともに、そこでの役割を果たしていく姿を育てようとしているためであろう。

一方、活動をふりかえる場面においては、Aの項目が多い傾向が見られる。これは自分の役割に対してというよりは、活動できた自分のよさに気づくことができる活動の流れとなっているということである。活動の終末で他者への協力や思いやりがその人の喜びにつながったことを知ることで、集団における自分の役割の大切さを実感し、必要な存在であることが考えられるようになっている活動計画と言ってもいいだろう。このような活動計画にすることで、子どもの自尊感情が高まり、その結果所属している集団へ貢献しようという意欲が高まるサイクルをつくり出していくのだろう。

この傾向から、集団のなかでの役割を果たせるようになることではなく、活動への原動力となる自尊感情を高めることに特別活動の第一義的な目的が位置づいていることが見えてきた。このような活動計画をつくることで、社会力を育むうえで大切なだろう。

②ブロック移行期におけるスタートプログラム

一般的にスタートプログラムは、幼稚園から小学校に、小学校から中学校にそれぞれ入学した際に用意されている。その点については、教育研究ブロックの設定により可能にしている。

しかし、ブロックの移行期(小学2年→小学3年、小学5年→小学6年)の整理も必要だということが昨年度までの取り組みを見直す中でわかった。例えば、小学2年における学級での係活動は当番活動的に行われているが、小学3年以上になると子どもたちによる自発的、自治的な活動へと次第に変わっていく。この境目にある小学3年の中心になる活動として係活動が位置づいていることは、活動の場や質が変わるブロック移行期のスタートプログラムに相当するものだろう。ここでの活動の充実が4年生以降の宿泊行事や委員会活動などにつながってほしいと願っている。同様に小学5年から小学6年へどのようなつながりをつくるのが学びの充実につながるかを考えることの大切さに気づくことができた。

③めざす姿の実現に向けた起案文書の共有化の必要性

学校園には、例えば運動会・体育会など各校園で別々に行ってはいても、共通した行事がある。それらの行事については別々に計画が立案され共有されていないため、例えば運動会・体育会に向かう中学1年と小学6年とで、つけたい力のつながりが曖昧なまま立案されていた。しかし、これらの行事を通して、どんな力をつけようと考えているのかを共有化し、互いに共通理解しながら計画を立てていくことが一つの流れのなかで子どもを育てることになるだろう。学校種を超えて、前の学年でどこまでの姿をめざしていたのかを理解することが、「6つの力」をつけていくことにつながると考える。

④道徳、保育・生活・総合とのかかわりの重要性

今回、こうして道徳的心情との関わりで特別活動のあり方を見つめた。こうすることにより、特別活動の役割や活動計画のあり方を改めて整理することができた。しかし、課題への追求方法や、地域とのつながりの薄さから、特別活動だけでは育てられない点も見えてきた。今後は、地域に積極的に出かけ、そこで見つけた課題を追求する保育・生活・総合領域とのつながりについても、模索していく必要があるだろう。

こうして検討してきたことは、来年度から、実施・検証に移していく。子どもたちが集団の一員として生活づくりに参画していくために必要となる社会力の育成をめざし、実践に向かいたい。

(文責 和田 倫寛)

〔表1〕特別活動で育てたい力や気持ち

	初等前期				初等後期			中等部			
	4歳	5歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
責任感から											
創意工夫から											
自尊感情を基盤に											

〔表2〕 附属学校園で取り組んでいる主な行事

	初等部前期				初等部後期			中等部			
	4歳	5歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
4月	始業式		始業式					始業式			
	入園式		入学式					入学式			
	誕生会		児童集会「新しい仲間」					生徒会入会式			
5月	附属学校園合同集会										
	遠足							遠足		修学旅行	
	誕生会							小体連陸上大会			
6月	誕生会							校内弁論大会			
			林間学校								
7月	誕生会							臨海学校			
	終業式		終業式					終業式			
8月											
	始業式		始業式					始業式			
9月	誕生会							遠足			
			体育会					運動会			
10月	附属学校園合同集会										
	運動会		連合音楽会					マラソン大会			
	誕生会							秋の祭典			
11月	子どもまつり							校内音楽会			
	誕生会										
12月	誕生会										
	終業式		終業式					終業式			
1月	始業式		始業式					始業式			
	もちつき会		もちつき会					百人一首大会			
	誕生会										
2月	うさぎ当番引継ぎ集会		校内音楽会					球技大会			
	誕生会										
3月	誕生会		お別れ集会					3年生を送る会			
	さよなら会										
	修了式		卒業式					卒業式			
	終業式		修了式					修了式			

〔資料〕 各学年の中心となる活動の計画案

年長 活動計画 (活動名: さよなら会)

特に育てたい力 [責任力 実践力 創造力 イメージ力 受容力 仲間力]

活動の流れ	予想される子どもの姿	道徳との かかわり
1 年長児がなくなる(修了)ことを知る。「さよなら会をしよう!」	・お世話になった年長さんのために「何かしてあげよう!」と、年少なりに考えを出し合う姿。 ・クラス、または友だちと相談して何かについてあげよう、年長児に気持ちを向ける姿。	A
2 「さよなら会」の準備をする。	・年長さんを喜ばせるために、贈り物やプレゼントを作ったりして活動に取り組みもうとする姿。 ・司会をするために「一緒に言おうね」「大きな声で言おうね」などと、グループ同士で、気持ちを合わせてよとながら台詞を言おうとする姿。	A C
3 「さよなら会」をする。	・年長さんにありがとうの気持ちを込めて、「さよなら会」を進めていく姿。 ・ありがとうの気持ちを年少なりに言葉や表現で伝えていく姿。	C B

年長 活動計画 (活動名: 誕生会)

特に育てたい力 [責任力 実践力 創造力 イメージ力 受容力 仲間力]

活動の流れ	予想される子どもの姿	道徳との かかわり
1 誕生児をお祝いするために何をしたらよいかクラスで話し合うプレゼントを製作する	・「○○ちゃんはお花が好きだね、おりがみでお花を作ろうよ」「贈り物を見せてあげようよ」などと、誕生児を喜ばせるためには何をしたらよいかを思考・判断する姿。 ・「○○くんは何が好き?」といった、誕生児の気持ちを汲み取りながら、製作を進めていこうと相手を思いやろうとする姿	B
2 全学級での誕生会で司会進行をしてほしいと教師が提案する	・「年長にしかできんけんやる」「〇月生まれさんかうれしい気持ちになるようにしてあげたい」などと、年長としての自覚をもちながら、年長なりに責任感をもって活動に気持ちを向けていく姿	B C
3 全学級での誕生会で司会進行をするためにグループで練習する	・「手をつないで一緒に言ったらいいんじゃない?」「大きな声で言おうね」などと、グループ同士で話し合いながら、気持ちを合わせて台詞を言おうとする姿。 ・言葉がなかなかそろわないグループは「後で練習するよ」「遊戯室集合ね!」などと、積極的に活動に取り組みもうとする姿	C
4 全学級の誕生会で司会進行をする	・「せーの!」と言い、グループみんなの気持ちを合わせながら台詞を言い、与えられた役割を果たしていこうとする姿	A C
5 クラスで誕生会をするプレゼントを渡すお祝いの歌(踊り)を見る	・「○○ちゃんの好きな歌を歌います」と、誕生児が喜ぶようにと年少なりに考えながら、歌や踊りでお祝いの気持ちを伝えていこうとする姿	B

小学 1年 活動計画 (活動名: お別れ集会)

特に育てたい力 [責任力 実践力 創造力 イメージ力 受容力 仲間力]

活動の流れ	予想される子どもの姿	道徳との かかわり
1. 6年生との思い出をふり返る。	・6年生と一緒に活動したことなどをふり返り、どんな場面でもなんでもお世話になったのかを思い出しながら、感謝の気持ちをもつ姿。	B
2. ペンダントを作る	・どんなペンダントを作ったら6年生が喜んでくれるのかを考えながら作る姿。 ・きょうだい学級のお兄さん・お姉さんとの思い出をふり返りながら、感謝の気持ちを込めて作る姿。 ・「6年生が卒業したら、自分たちの力で頑張ろう」という、2年生になったときの自分を想像しながら作る姿。	B B A
3. ペンダント渡しのリハーサルをする。	・本番をイメージしながら、自分の役割を果たそうとする姿。	C
4. お別れ集会で、6年生にペンダントを渡す。	・6年生に「ありがとう」「頑張っただね」の気持ちを込めてペンダントを渡そうとする姿。	B
5. ふりかえりをする。	・ペンダント作りからお別れ集会でペンダントを渡すまでの自分や友だちのがんばりを認め合う姿。	A C

小学 2年 活動計画 (活動名: 低学年遠足)

特に育てたい力 [責任力 実践力 創造力 イメージ力 受容力 仲間力]

活動の流れ	予想される子どもの姿	道徳との かかわり
1 遠足に出発する	・「どんなお話をしようかな?」「優しく話しかけてあげよう」などといった、ペアの子と楽しく歩くことができるように思考・判断する姿。 ・「自分がお兄さん(お姉さん)なんだから、危なくないようにちゃんと手をつないで歩こう」といった、責任感あふれる姿。	B C
2 公園に到着する	・「1年生に先に道具を使わせてあげよう」といった、下級生を優先させてやったり、公共のものを譲り合って使ったりしようとする姿。 ・「危なくないように遊具の周りで見張りをしよう」などといった、上級生として下級生の安全管理を意識して行動する姿。 ・「ほかのペアも誘って遊ぼう」といった、多くの仲間との交流を深められるように行動する姿。 ・「お弁当はグループで丸くなくて食べよう」などといった、グループの結束力を高めていく姿。	B C C B B
3 学校に向けて出発する	・「ペアの子が疲れたら、荷物を持ってあげようかな」「列から離れないようにしっかりリードしていくぞ」などといった、相手を思いやろうとする姿。	B

小学 3年 活動計画 (活動名: あたか人間関係をはぐくむ係活動)

特に育てたい力 [責任力 実践力 創造力 イメージ力 受容力 仲間力]

活動の流れ	予想される子どもの姿	道徳との かかわり
○学級の係をきめよう(4月) ①2年生までの経験を生かし、より主体的に取り組めるようにする。 ②日常生活の中で必要な仕事(掃除・連絡・配り・お助け・CD係など) ③自分達で考えたり出したりしよう(風船など)の係をスワップしよう	・2年生にした係は便利だし、必要だから、まじしよう。(CD係など) ・新しく自分たちの考えを生かせる係をつくろう。(スマイル係) ・係の人数は2~3人がいいな。配りは多いほうが良いかな。協力して出来るから。	A
○係活動のめあてや活動の内容が分かる内容を書き、お互いに柱がわかるようにして興味関心を高めよう	・理技を相談して決めよう。 ・係のめあてを決めよう。 ・仕事の分担を決めよう。	C
○係活動のめあてや活動の内容が分かる内容を書き、お互いに柱がわかるようにして興味関心を高めよう	・今後の係会で用意してほしいものは、○○です。 ・明日の園工に必要なものは、○○です。	C
○係活動のめあてや活動の内容が分かる内容を書き、お互いに柱がわかるようにして興味関心を高めよう	・係活動でドッチボール大会をしよう。 ・園庭で、ローリングゲームをつくってやろう。 ・スマイル係でみんなが笑顔を「3の1反響」をしよう。 ・CD係で歌合戦大会をしよう。 ・別の言語が初めて、とてしなかった。 ・プログラムがあまりなかった。時間も計画されていた。みんな協力できた。	A C B
○2学期の係をきめよう(8月) 活動のめあて ・学期を振り返り、学期に必要な係を考え、決まった係・仕事を覚え責任をもって行えるようにして行く。 ・長い2学期に活動を見直し、活動計画の必要性に気付かせる。	・○○係はあまり活動しなかったから、やめたいのと思う。 ・園庭と体育係は、いっしょになっていいと思う。 ・水の要領を守る係があるといいな。 ・○○さんかかんはっていらから、スマイル係になりたないな。	A
○3学期の係をきめよう(1月) 活動のめあて ・計画に沿った活動を行う ・学期内の自分の果たすべき役割を考え、協力しながら実行できるようにしていく。 ・自分達ができるより活動内容や方法を工夫させる。	・○○係でみんなのために役に立つ活動をしたい。 ・クラス全員で思い出しに集る集会がしたいな。	C

小学 4年 活動計画 (活動名: 林間学校)

特に育てたい力 [責任力 実践力 創造力 イメージ力 受容力 仲間力]

活動の流れ	予想される子どもの姿	道徳との かかわり
○学習会(学校) ・班での生活について	・班のめあてが達成できるようにがんばるぞ。 ・みんなのことを考えて行動するぞ。 ・みんなの気持ちや考えをわかんないな。 ・係ではどんな活動があるのかな。 ・当日、こんな仕事をしよう。 ・僕にできるかな。だいじょうぶかな。 ・みんなを驚かせるぞ。 ・そのアイディアがおもしろいね。 ・なかなか意見が合わないな。どうしよう。	B C C
・係活動		C
・班の出し物練習		C
○前番での過ごし ・班での生活	・めあてが達成できるようにがんばるぞ。 ・みんなのためにできることはあるかな。 ・勝手なことをしているなあ。 ・自分の仕事の確認をしよう。 ・係で困ったけど、同じ係の班の人が助けてくれた。 ・突いた時間を使って班のみんなと練習をしよう。 ・流れをもう一度確認しよう。	B B
・係活動		C
・班の出し物練習		C
○自然探索	・みんなと自然探索を楽しもうぞ。 ・班の人が助けてくれてうれしいな。 ・寝たからいやだな。	B
○キャンプファイヤー	・練習してきたものを発表するぞ。 ・盛り上げるために精一杯やるぞ。 ・だいじょうぶかな。	C
○前番での過ごし ・班での生活 ・係活動	・力を合わせてがんばれた。 ・反省を生かして次がんばるぞ。 ・他の活動でも林間学校で学んだことを生かそうぞ。	B C

小学 5 年 活動計画 (活動名: 臨海学校)

特に育てたい力 [責任力 実践力 創造力 イメージ力 受容力 仲間力]

活動の流れ	予想される子どもの姿	道徳とのかかわり
○学習会 ・活動のねらい・めあての確認 ・臨海学校までの活動の流れについて ・班会, 係会 ・保健学習	・臨海学校へ向けて, みんなで協力して準備を進めるぞ ・見通しをもって活動するぞ	B C
	・みんなが気持ちよく, スムーズに, 楽しく活動に取り組めるように班や係りの仕事をがんばるぞ ・体の成長について分かったぞ ・みんなの体と心を大切にしよう	A
○結団式	・臨海学校では泳力を伸ばしたり, みんなで生活をつくっていくために, 協力したりがんばるぞ	B
○健康チェック	・臨海学校へ向けて, 体調を整えるぞ (就寝・起床時間, 食生活の改善) ・自分の体調の変化を知るぞ	B
○水泳練習	・泳力を伸ばすぞ ・安全に水泳をするためにみんなで協力して行動するぞ ・当日の水泳練習の見通しをもつぞ	A
	・海でのルールやマナーを守り, 安全に楽しく泳力を伸ばしたり, 自然にふれあったりするぞ ・仲間との絆を深めるぞ ・係会での話し合いをしっかりと行い, 班会でみんなに確実に伝えるぞ	A B C
☆臨海学校当日 ・水泳練習 (観察) ・夜の集い ・班会, 係会	・みんなで協力しながら, 見通しをもって活動することができた ・水泳練習を真剣に取り組み, 泳力を伸ばすことができたぞ ・はじめのある行動をもっと意識してこれからもがんばりたい ・臨海学校で学んだことをこれからの生活に活かしていくぞ	B A
	○学習会 (ふりかえり)	・運動会の経験を, 今後の生活に生かそうとするだけでなく, 来年度に向けての意欲が高まる。

小学 6 年 活動計画 (活動名: 体育会)

特に育てたい力 [責任力 実践力 創造力 イメージ力 受容力 仲間力]

活動の流れ	予想される子どもの姿	道徳とのかかわり
・6年集会 「体育会に向けて」 ・体育会集会	・これまでの体育会を思い出し, 体育会やその準備に見通しをもち, 小学校生活最後の体育会をどんな体育会にしたいかのイメージをもつ。	B C
	・学年のめあてについて意見を出し合って決め, それに向かう個人のめあてをもつ。 ・執行部から示された願いをもとに話し合い, 学級の願いをもつ。 ・各学級の願いを言葉できるように執行部の司会のもと話し合いをすすめる。	A C
・色別会 I~V	・同じ色の仲間と出会い, これからも目指していく姿のイメージをふくらませる。 ・応援練習をリーダーとしてすすめる, 分かりやすく説明したりふりかえりを次に生かしたりしていくとする。 ・当日をイメージして一人一人が自分の役割を果たす。	B C
・係会 I~III	・係の仕事内容をつかみ, 準備や当日の動きのイメージをもつ。 ・自分の動きや他の係との連携のイメージをもつ。(II) ・本番のイメージを共有し, 自分たちで動けるようになる。	C
・色長会 ・係長会	・色や係のリーダーとしてふりかえりをしながら, 自分のイメージしたものに近づけるためにはどうしたらよいか, 他の色, 他の係の友だちと協力しながら話し合う。	C
・6年集会 学年種目練習	・学年種目の練習を通じて, 色の団結力を高める。 ・最高学年としてどのように動けば, 時間をかけずに競技を行うことができるか一人一人が考えて行動しようとする。	B
・リハーサル ・前日準備	・本番の動きを確認し, イメージをふくらませる。	B C
・体育会当日	・友だちと協力しながら, 体育会を運営し, 体育会を自分たちで作上げた達成感を味わう。	B C
・6年集会 ふりかえり	・体育会での経験を今後の生活に生かそうとする。	A

中学 1 年 活動計画 (活動名: 運動会)

特に育てたい力 [責任力 実践力 創造力 イメージ力 受容力 仲間力]

活動の流れ	予想される子どもの姿	道徳とのかかわり
・色決め抽選会	・2年生や3年生も含めた色の決定により, クラスや学年を超えての, 協力体制や所属感を高めようとする。また, 中学でむかえる初めての運動会へのイメージをふくらませる。	C
・色別応援練習	・「運動会を成功させたい」と, 願う3年生の思いに触れる中で, 運動会への意識や組への所属感が高まる。	C
・学年種目練習	・学年種目の練習を通じて, クラスの団結が高まる。	C
・運動会当日	・仲間とともにむかえた運動会を楽しむとともに, 勝敗をこえた感動や達成感を味わう。	B
・ふりかえり	・運動会の経験を, 今後の生活に生かそうとするだけでなく, 来年度に向けての意欲が高まる。	A

中学 2 年 活動計画 (活動名: 運動会)

特に育てたい力 [責任力 実践力 創造力 イメージ力 受容力 仲間力]

活動の流れ	予想される子どもの姿	道徳とのかかわり
・色決め抽選会	・1年生や3年生も含めた色の決定により, クラスや学年を超えての, 協力体制や所属感を高めようとする。	C
・色別応援練習	・「運動会を成功させたい」と, 願う3年生の思いに触れる中で, 運動会への意識や組への所属感が高まる。また, 「来年は, 自分たちが最高学年」という視点から, イメージをふくらませ, 積極的に運動会に関わろうとする。	C A
・学年種目練習	・学年種目の練習を通じて, クラスの団結が高まる。	C
・運動会当日	・仲間とともにむかえた運動会を楽しむとともに, 勝敗をこえた感動や達成感を味わう。	B
・ふりかえり	・運動会の経験を, 今後の生活に生かそうとするだけでなく, 来年度に向けての意欲が高まる。	A

中学 3 年 活動計画 (活動名: 運動会)

特に育てたい力 [責任力 実践力 創造力 イメージ力 受容力 仲間力]

活動の流れ	予想される子どもの姿	道徳とのかかわり
・色長をはじめ, 組の役員の選出	・中学最後の運動会を成功させるため, リーダーを中心にまとまり, 協力体制を確認し, 学級への所属感を高めようとする。	C
・色決め抽選会	・1年生や2年生も含めた色の決定により, クラスや学年を超えての, 協力体制や所属感を高めようとする。	C
・テーマ決定 ↓ デコ, 衣装のデザイン決定	・理想とする運動会や, 目指すクラスの様子をイメージし, テーマを決定し, それに向けて取り組もうとするなかで, 学級の団結をはかっていく。	C
・衣装, グンス, デコの計画と作成	・完成するまでの過程では, 意見の対立や, 様々なハプニングが予想される。それらを, 話し合いや協力による解決をはかりながら, 仲間と活動することの喜びを感じる。	B
・色別応援練習	・1, 2年生に教える中で, 後輩の手本となるべく自分たちの行動を見直し, よりリーダーシップを発揮できるよう, 努力する。	A
・運動会当日	・仲間とともにむかえた運動会を楽しむとともに, 勝敗をこえた感動や達成感を味わう。	B
・ふりかえり	・運動会の経験を, 今後の生活に生かそうとするだけでなく, この伝統を残してほしいという, 学校に對する愛着が育つ。	C